

国際J-列-第2620地区

静岡第5グループ



POWER
HAMAMATSU
ROTARY CLUB
JAPAN

週報 パワー浜松ロータリークラブ

もう一步前へ！

RI 会長 フランチェスコ・アレッソ / 第 2620 地区ガバナー 稲葉雅之 / 会長 加藤恵司 / 幹事 鈴木 亮
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラアクティシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立 : 2002 年 10 月 22 日 認証伝達式 : 2003 年 4 月 29 日 スポンサークラブ : 浜松中 R C

よいことの
ために
手を取りあおう

Rotary



第1026回例会8月5日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラアクティシティホテル浜松 3 階 チエルシーの間
- 司会：鷺津有一 井熊正浩
- 点鐘：加藤恵司
- 週報：匂坂幸治
- ロータリーソング：「それでこそロータリー」
- ゲスト：株式会社マキウチ 代表取締役 牧内真実様
米山記念奨学生 オウ・ウテイさん

出席報告/スマイル報告

会員数 64 名 (内出席免除会員 3 名)
出席数 53 名 出席率 86.89%

スマイル提出者氏名掲載
村木則予会員・熊谷真一会員
小田木基行会員・堀内善弘会員
国際奉仕委員会・原田道子会員
青少年育成委員会・会長・幹事

会長挨拶 会長 加藤恵司

おはようございます。暑い日が続きますが、皆さんお変わりありませんでしょうか？
外で働く人は、そろそろ宇宙服みたいなものを着ないと仕事できないのではないかと
思っています。

本日は、青少年育成委員会の担当例会です。

水産でスーパー・マーケットを経営されている(株)マキウチ 代表取締役牧内真美さんの
「地元ではない私の限界地域の実情」をテーマにのちほどお話ししていただきます。
よろしくお願ひ致します。

さて、この後委員会報告で出てくると思いますが、パワー浜松ライングループを立ち
上げることになりました。各委員会、役員理事会や同好会でもライングループを作つて
ると思いますが、クラブ全体のライングループはありませんでした。私たちは朝の例会
ですので、そのまま仕事に向かえるというメリットがありますが、反面どうしてもコミュニケーションが不足する
というデメリットがあります。またそれなりの人数ですので会員の誰が何を考えているのかよくわから
ないことがあります。

オールパワーは公的な連絡事項を扱っていますが、ライングループはもっと碎けた風通しのよいコミュニケーションツールとして使っていただければと考えています。

詳細は管理者の堀内さん（規約を作っていました）から、運用については会員維持増強委員会の大石さんか
らお話があると思います

私は種をまく係なのでちゃんと花が咲くのかわかりませんが、ひとえに皆様の使い方次第となります。

理事会で「まあ、やるだけやってみればいいんじゃないですか。ダメだったら止めればいいんだし。」との励ましの
お言葉とともに承認して頂きましたのでよろしくお願ひ致します。

今日も一日よろしくお願ひ致します。



幹事報告 幹事 鈴木 亮

レターケースへゴルフ同好会の案内、パワー浜松 RC ライングループの運用規定を
配布しました。

先週も報告しましたが「古着 de ワクチン」を 9 月の最終例会まで受付しています。
提供して頂ける方は幹事までご連絡ください。残り 1 袋です。

8/2(土)に地区のロータリー財団セミナーに青山委員長と参加してきました。内容に
ついてはまたどこかのタイミングで会員の皆様に落し込みをさせて頂きたいと思
います。

以前卓話にお越し頂いた、株式会社ありがとうの黒柳社長から、
「子どもが経営する食堂」の案内を頂きました。回覧しますので興味のある方は足をお運びください。



委員会報告

- 会員維持増強委員会 堀内会員・大石会員
パワー浜松 RC ライングループ、ガイドライン
利用方法について



- 社会奉仕委員会 堤会員 アマモの件

- 財団プログラム委員会 青山会員
寺子屋しんづ支援のアンケートの回答依頼
8月2日第1回地区補助金事業として堀内さん千明さんより
パンをお届け頂きました。



- ゴルフ同好会 会長 青山会員
第1回目 青空例会案内
第135回第5グループゴルフコンペ案内

- 米山記念奨学生 オウ・ウティさん
中国語講座

議事

- 株式会社マキウチ 代表取締役 牧内真実様
「地元ではない 私の限界地域の実情」

静岡県浜松市天竜区水窪町で「スーパー牧内」を経営する代表取締役の牧内真美氏は、「地元ではない私の限界地域の現状」と題し、社長就任から現在に至るまでの挑戦と成長の物語を語りました。

牧内氏は16年前に水窪に嫁ぎ、2年半前に夫からスーパーの社長職を引き継ぎました。社長就任当初は経営知識や経験が乏しく、周囲から理解を得られない孤独を感じていましたが、このままでは店の未来はないと危機感を抱いていました。そこで「お客様を待つだけでなく自分たちから外に出て関係人口を広げよう」と決意し、周囲の反対を押し切って接骨院への刺身や惣菜の配達を始めます。お客様からの

「ありがとう」の言葉を励みに地道に続けた結果、半年で売上が大幅に伸び、月24万円を達成。この成果を見て夫も協力的になり、老人ホームや長野県の温泉宿など新たな取引先も開拓されました。

従業員が働きやすい環境を整えたいという思いから、パートの立場では限界を感じ、夫と相談の上、社長に就任。家族経営から「戦略を練り、挑戦できるチーム」への変革を目指しましたが、当初は戸惑いや不安が広がり、「ひたすら耐えること」を経験しました。しかし、少しずつ変化の兆しが見え始め、現在では従業員と共に「お客様と楽しめる店」を目指し、毎週フェアを開催するなど、未来に向けた活動を進めています。

また、水窪町の過疎化による「人材確保」と「住む場所の確保」という課題に対し、空き家と移住者を繋ぐ活動を開始。その結果、市街地から4人の移住者がスーパー牧内で働くようになり、町に新しい風が吹き始めました。さらに、偶然の出会いからスーパー向かいの空き家が飲食店と宿泊施設としてオープンし、町の賑わいが戻りつつあります。

3人の子を持つ母親である牧内氏は、子どもたちが自らの意思で進路を選べるよう後押しし、長男は外部の中学校に通いながら、店のマグロ解体ショーのチームにも加わっています。これまでの16年間を振り返り、「簡単なことは一つもなかったが、苦しみも喜びも、全てが自分で育ててくれた」と語っています。

スーパー牧内の取り組みは、テレビ、ラジオ、新聞、書籍など様々なメディアで紹介され、特に夫の魚屋修行経験を活かした「山でマグロ祭り」は斬新さが好評で、県外や海沿いのレストランから声がかかるほどになり、遠征も行うまでになりました。社長になってからの2年間は信頼を得るために走り続けた日々であり、ようやく「スーパー牧内をどう育てていきたいのか」と自分自身に問えるようになったと述べ、これから多くの仲間とストーリーを紡いでいきたいと締めくくりました。

加藤会長は、牧内氏の講演について「大変ご苦労されたこと、それによって挑戦されたこと、すぐに理解を得て社長業を拡大されていること、とても有意義な話題になりました。今後の発展を期待しております」と述べ、他の参加者からも共感の声が寄せられました。

